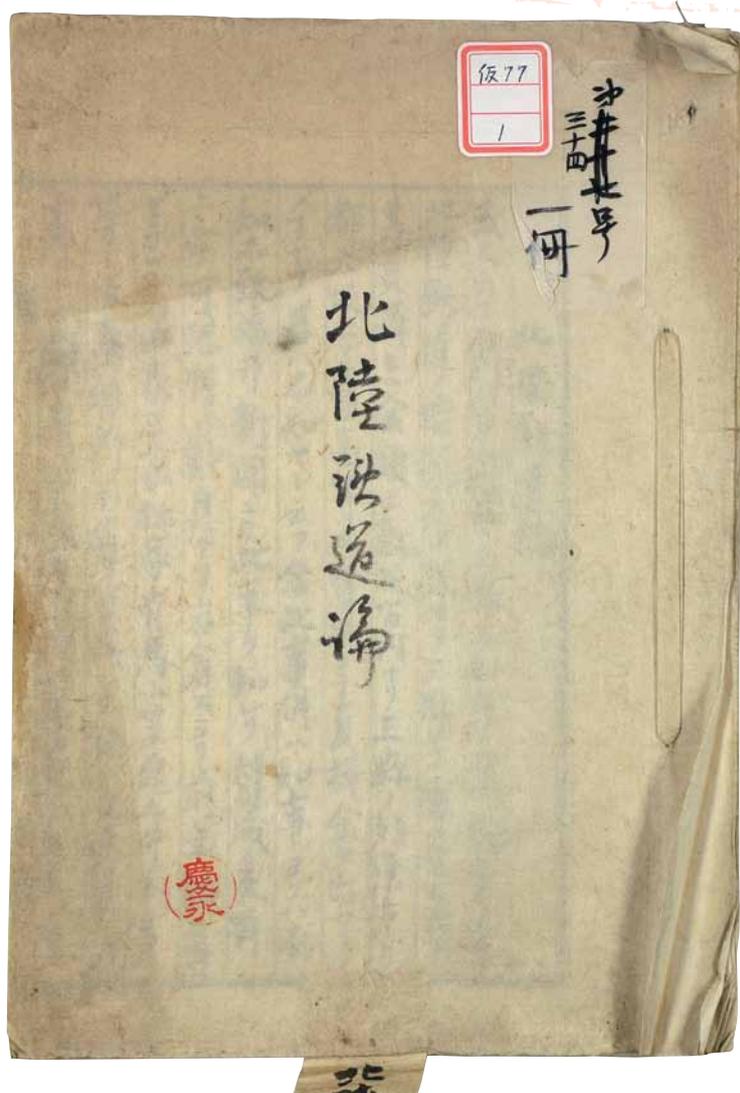


文書館だより

Fukui Prefectural Archives



▲「北陸鉄道論」 明治21年（1888）7月15日 松平文庫（福井県文書館保管） A0143-02823

第31号 目次

特集 資料保存研修会講演「みんなで考える地域資料保存」……	2
歴史的公文書紹介 ……………	4
寄贈・寄託資料紹介 ……………	6
お知らせ ……………	8

第31号

2023.12

福井県文書館

福井県文書館では、福井県内の博物館や図書館、文化財行政担当部局の職員等を対象とした資料保存研修会を開催しています。資料保存に関する知識や技能の習得を目的とした研修会で保存、修復、活用、災害対応など、各回のテーマを設定しており、今年は「地域資料の散逸を防ぐ」でした。

これまでは関係者向け研修会として開催してきましたが、今年のテーマは市民生活とも密接に関連するため、はじめての試みとして一般の方も対象として講演を開催しました。

本号の特集では、一人でも多くの「みんな」と地域資料の課題を共有していけるよう、10月6日(金)に開催した資料保存研修会講演「みんなで考える地域資料保存」の内容を紹介します。講師は小野塚航一氏(国立歴史民俗博物館特任准教授)です。

1. 地域資料とは何か

モノは、なんらかの価値を見出されてはじめて資料と呼ばれるようになります。そのような資料の中で「地域を総合的かつ相対的に把握するために必要なモノ」が地域資料です。古い新しいを問わず、カタチもさまざまです。ここでは地域資料の中でも、とくに文字記録について考えていきます。文字記録も種類は多様で、所蔵先は個人宅を含め広範にわたります。

2. 地域と地域資料の現状

地域資料の喪失の主な要因はふたつあります。ひとつは継承者の不在、もうひとつは災害です。

(1) 継承者の不在

2014年、日本創成会議・人口減少問題検討分科会による人口減少の試算が発表されました(通称「増田レポート」)。人口再生の95%を担う若年女性人口が2040年までの間に5割以上減少する市町村が全体の半分に及ぶという試算は大きな反響を呼び、政府の地方創生政策や関連する取り組みが各地で推進されるきっかけとなりました。しかし、コロナ禍を経て人口減少はさらに加速しています。

人口減少にともなう問題のひとつが空き家の増加です。10年後には、およそ3戸に1戸(30.2%)が空き家になるとの予測もあり、相続人の不在や解体によって、個人宅に伝わる多くの地域資料が廃棄や処分の危機にさらされています。ネットオークション市場における古文書を中心とする地域資料の出品数・落札数の増加は、そうした状況の現れといえるでしょう。

(2) 災害

もうひとつの要因である災害が発生したとき、国や都道府県あるいは市町村の「指定文化財」に該当する地域資料は、行政の文化財担当者による確認と、法律にもとづく保護の対象となります。



ところが、地域資料の多くは「未指定文化財」であるため、その対象にはなりません。基本的には所蔵者による「自助」が求められることとなります。ただし、災害時は所蔵者自身が被災者となるため、所蔵資料の確認・保護を自力で行うのは難しいのが実情です。行政の側も、災害時の備えとして未指定文化財の防災対策や所在調査の必要性を認識していますが、予算や時間の問題から思うように実現できておらず、課題となっています。

3. 資料ネットの取り組み

災害発生時に、所蔵者や行政に代わって地域資料の保全を担う団体があります。それが「資料ネット」です。1995年の阪神・淡路大震災を契機に発足した「歴史資料ネットワーク（史料ネット）」を嚆矢とする資料ネットは、被災した地域資料を救出・整理するボランティア団体として活動を続けてきました。当初、活動範囲は地震災害が中心でしたが、2004年の福井豪雨以降、恒常化しつつある大規模水害にも対応するよう



▲福井豪雨での水損資料の応急処置

になりました。資料ネットは、大学や博物館の関係者だけでなく、市民ボランティアとの協働を積極的に推進している点に特徴があります。2023年9月現在、約30の資料ネットが各地で活動しています。

2017年からは、国立歴史民俗博物館を主導機関として、全国の資料ネットと連携して地域資料保全の相互支援体制の構築を目指す、「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」がスタートしました。地域資料を後世に伝えていくための取り組みは、資料ネットを核として全国に少しずつ広がっています。

4. 地域資料を継承していくために

阪神・淡路大震災で地域資料の救出に奔走した歴史資料ネットワークのメンバーは、活動の過程で、「なにが資料か」という問いに対する社会通念の不在に気づきました。ゆえに、「地域資料を残そう」という言葉は、被災地において十分な共感を呼び起こすには至らなかったのです。

ところがその一方で、被災者は身の回りにあったモノをがれきの中から懸命に探し出し残そうとしました。「家族のものだから」、「コレクションだから」、「自分にとって大事な思い出だから」…。動機は多岐にわたりますが、通底するのは物質的消失を防ぎ、未来につなげようとする意思です。一度失われてしまったモノは、二度と取り返すことができない。この避けようのない事実こそ、人間がモノを残す根本の理由ではないでしょうか（近代批評の祖として知られる小林秀雄の歴史論（『ドストエフスキイの生活』など）は、この問題を考えるに際し、多くの示唆を与えてくれます）。地域資料を残す意義を広く理解してもらうためには、人がモノを残す行為をメタな視点で考察し、あわせて説明していくことが重要なのではないのでしょうか。

地域資料を残す実践も、その意義を考えていくことも、まだ緒についたばかりです。地域資料の継承が社会的に重要な課題であるという共通認識を得るには、みんなで考え、みんなで活動できる場を創り出していかなければなりません。

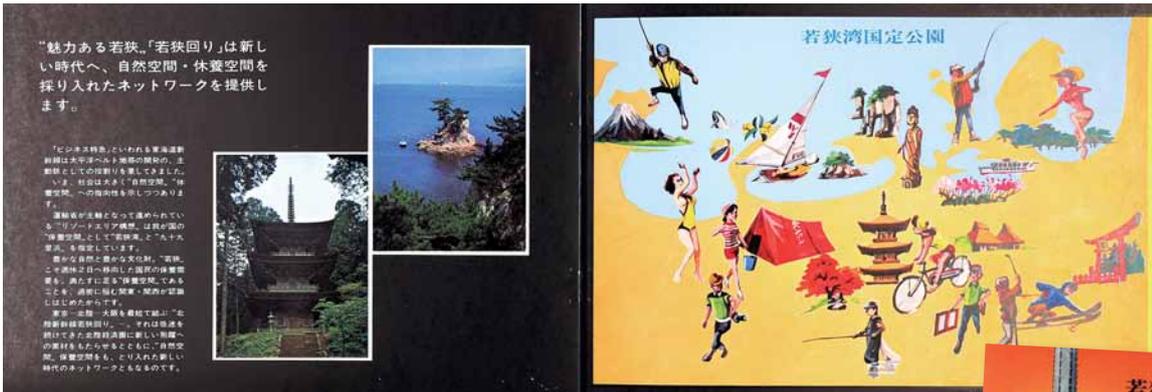
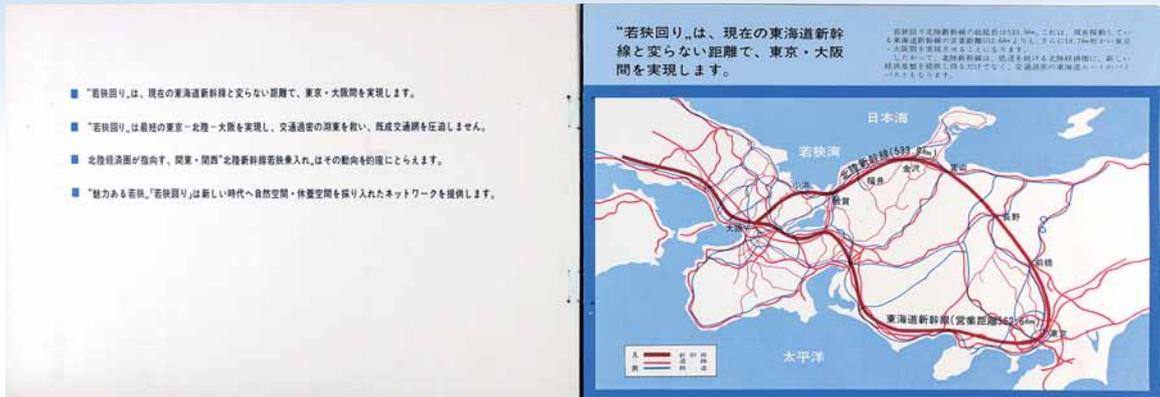
■表紙写真■ 「北陸鉄道論」

松平文庫（福井県文書館保管） A0143-02823



明治21年（1888）に松平春嶽が書き残した「未来ノ予言」です。この年、福井県は「北陸鉄道会社」（敷設計画は敦賀—滋賀県柳ヶ瀬—長浜を結んでいた政府鉄道の加越方面への延伸）の設立を推進していました。

実はその4年前、「東北鉄道会社」（敷設計画は柳ヶ瀬から加越方面への延伸）が設立されたものの発起人の対立や資金難で挫折していました。春嶽は、その発起人の一人でした。



▲「北陸新幹線若狭乗り入れ建設促進同盟会」作製の若狭ルート実現をアピールするパンフレット

なお、整備計画では敦賀以西のルートとして「小浜市附近」を経過すると明記されましたが、その前の基本計画の段階では米原へのルートが想定されていました。しかし、県は、県土の一体的な発展のためには若狭ルートが不可欠であるとし、中川平太夫知事を先頭に、田中角栄総理大臣や鈴木善幸鉄道建設審議会長、橋本登美三郎自民党幹事長（役職、組織名はいずれも当時）などに陳情を重ね、整備計画が決定されるまでの間に田中総理の首を縦に振らせることに成功したのです。これに対する地元の感謝の気持ちとして、小浜線にSLを復活させる構想が持ち出されたという新聞記事（毎日新聞1973年（昭和48）10月7日付）も残っています。

しかし、不運にも整備計画の決定とほぼ同時期の1973年（昭和48）10月に第1次オイルショックが始まり、狂乱物価といわれるようなインフレが発生、財政事情が悪化した政府は田中内閣の日本列島改造論から総需要抑制へと大きく方針転換し、整備新幹線の建設予算も抑制されることとなります。さらには、第2次オイルショックや国鉄経営再建問題などもあり、1982年（昭和57）9月には整備新幹線を当面凍結することが閣議決定されてしまいます。凍結下においても、高崎・小松間の工事認可申請や、小松・芦原温泉間のルートの決定・公表などは行われていますが、沿線自治体などにとってはもどかしい時期が続きました。



▲1987年12月「北陸新幹線早期実現福井県民総決起大会」の様相（福井県広報写真No.83028）

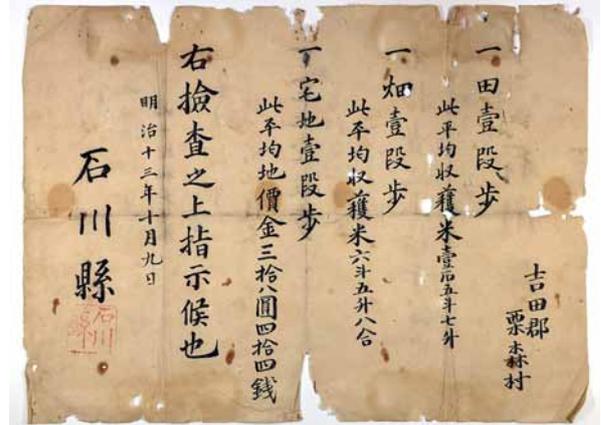
1987年（昭和62）1月に凍結が解除され、翌2月には日本鉄道建設公団から芦原温泉・南越のルートが公表されます。この後、運輸省からは建設費を抑えるための規格（ミニ新幹線方式、スーパー特急方式）やフリーゲージトレイン方式が示されるなど、紆余曲折がありました。本県では各同盟会等を中心に、建設促進に向けたさまざまな取り組みが行われていきます。

◆◆◆ 寄贈・寄託資料紹介 ◆◆◆

● A0055 林又左衛門家文書（寄贈）

吉田郡栗森村（現・福井市栗森）の林家に伝わる資料群です。九頭竜川下流右岸に位置する栗森村は、江戸時代は福井藩領で村高467石余の集落でした。林家は代々又左衛門を名のり、栗森村の庄屋、副戸長（明治期）を歴任しました。戦後は森田町役場の助役をつとめており、福井市との合併業務にも関わりました。

今回新たに135点が追加寄贈され、資料総数は1,197点となりました。追加寄贈資料には、地租改正関係文書、香典帳、錦絵、森田町と福井市との合併関係文書などがあります。写真は、1880年（明治13）に石川県によって実施された越前7郡の地租改正再調査の結果、栗森村の見据額（査定額）を示した指示書です。



▲「〔栗森村田畑平均収穫米、宅地平均地価金見据、地租改正・再調〕」 A0055-01061

● A0215 河崎家文書（寄託）

1655年（明暦元）、福井藩の支藩・吉江藩に召し抱えられ、その後は廃藩置県まで福井藩に出仕した河崎家伝来の資料群です。同家の家禄は100～150石の間で推移し、3代や5代の当主は藩の要職「御奉行」にも任じられています。また、6代当主の三郎助致高は、松平慶永（春嶽）に重用され、橘曙覧の門人でもありました。

全162点のうち近世資料では、歴代当主宛ての知行宛行状や知行書出、勤書などが豊富に残されています。このうち吉江藩時代のものは他家での例がなく、不明な点の多い同藩家臣団像の一端をうかがわせます。このほか近代以降の資料では、学校での修業証書や写真、辞令などが伝わっています。



▲「〔松平昌親〕知行宛行状」 A0215-00026

前号紹介後に新たに公開した古文書一覧

- A0055 林又左衛門家文書（追加）
- A0141 坪川家文書（追加）
- A0143 松平文庫（追加）
- A0212 城本三左衛門家文書
- A0215 河崎家文書
- A0216 白崎昭一郎文書
- A0217 太田区有文書（追加）
- A0221 諏訪公一家文書
- A0222 瑞源寺襖下張文書
- C0094 三国南小学校文書
- C0121 浅田益作収集文書（追加）
- H0061 旧南日野村役場文書

● A0222 瑞源寺襖下張文書（寄贈）

福井市足羽の瑞源寺書院の襖下張りとして再利用されていた資料からなる資料群です。襖下張りのために断簡が多く、資料の損傷や劣化も進んでいたため1点ずつの資料として復元することは困難でしたが、江戸時代後期を中心に明治初期までの約100点の資料が確認されました（資料目録件数は46件）。出所の瑞源寺に関する資料は含まれていません。



▲「呼状（今夕遊川参度二付、野村・出淵・渡辺氏）」

A0222-00018

主に江戸時代後期の吉田郡灯明寺村および同郡三郎丸村などの貢納関係の資料や、福井藩士関係の資料が含まれます。特に后者では藩士およびその関係者間でやり取りされたとみられる書状や廻状、覚などが若干あり、当時の様子をうかがうことができます。

● H0061 旧南日野村役場文書（寄贈）

南日野村は、日野川中流域、日野山南西麓にあり、町村制施行で1889年（明治22）に発足し、1954年に北杣山村・南杣山村と合併して南条村になりました。この資料群は旧南日野村の役場文書が中心で、南日野村ができる前の1877年（明治10）から合併後の1960年ごろまでの371点の資料よりなります。議事録や庶務・社寺・学事・兵事文書など役場で作成された簿冊類を残しています。

写真の資料は、地方改良運動の推進のために作成された「村是」（村の目標や方針）とその結果を報告する「村是実行成績」です。



▲（左）「大正三年 南日野村々是 第27号永久」
（右）「大正四年 村是実行成績 第28号」

H0061-00046・00047

資料所在確認調査を行っています

文書館では、福井県史を編さんする際に調査を行った資料所蔵者の方を対象に、資料所在確認調査を行っています。今年度は敦賀市・小浜市の2市で実施しており、来年度以降も同様の調査を県内の各市町で実施していく予定です。アンケートによる調査のほか、資料所蔵者の方からの要望で資料の保管場所を訪問し、資料の状態を確認するための調査も行っています。

また、この調査を契機として、各市町や当館などで緊急性の高い資料の調査や受け入れを進めています。資料の保存方法の相談などは、お気軽に文書館までお問い合わせください。

開館20周年を迎えました

2023年2月1日で福井県文書館は開館20周年を迎えました（あわせて図書館が移転開館20周年、ふるさと文学館が開館8周年）。2月から3月には、3館などが連携して多彩な記念企画を開催しました。



▲歴史的公文書ミニ展示
「文書館なの？公文書館なの？」



▲パネル展示「文書館20年のあゆみ」



▲ボランティア功労者感謝状贈呈式



▲専門講座「古文書が語る“ウソ”と“ホント”—近世初期、越前の山争い—」

叢書発刊予定のお知らせ

今年度の『福井藩士履歴12』（福井県文書館資料叢書20）は、令和6年3月末ごろ発刊予定です。昨年度に続く「新番格以下」（藩士の中でも卒身分）を対象として準備を進めています。既刊の資料叢書と同様に、希望者には文書館閲覧室、あるいは送料実費負担にて配布します。

ご利用案内

■ 開館時間

午前9時から午後5時まで

■ 休館日

月曜日（国民の祝日は除く）
祝日の翌日（土、日、祝日は除く）
文書等点検期間（年間10日以内）
年末年始（12月29日～1月3日）
清掃整理日（4月・7月・12月以外の第4木曜日、祝日の場合は翌日）

■ フレンドリーバス（無料）をご利用ください。



※フレンドリーバスのバス停は図書館の敷地内

編集後記

2024年3月に北陸新幹線の金沢・敦賀間が開業します。「北陸鉄道論」で「未来ノ予言」をした松平春嶽は、どう見るでしょうか。「北陸鉄道論」はデジタルアーカイブ福井で画像を公開しています（右のQRコードからアクセスできます）。



文書館だより Fukui Prefectural Archives 第31号

2023年（令和5）12月8日発行

編集・発行／福井県文書館

〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891

ホームページアドレス <https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/index.html>

電子メールアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp



健康長寿の福井